

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No9(桐蔭学園)

#9 振り返りを学習内容理解に結びつけるために —桐蔭学園高校の教学IRとカリキュラム・マネジメント—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

(ご紹介)



岡田直哉

おかだ なおや

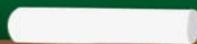
桐蔭学園高等学校
校長・統括校長



川妻篤史

かわつま あつし

桐蔭学園高等学校教諭
カリキュラムマネージャー



『カリキュラムマネジメント通信』

桐蔭学園 <office@toin.ac.jp>

To 学園中高専任教員, 学園非常勤講師

1学期末「授業に関するふり返り」の単純集計

今年度より、生徒対象に行っている学期末の「授業に関するふり返り」がリニューアルされました。教員ごとの集計は、「推進部ジョブメニュー」の「学期末ふり返り集計」でご覧いただけます。今回は別に科目ごとにデータを集計しましたので、教員の方々にお示ししておきます（集計は下のURLに保存されています）。

・2022年1学期学期末ふり返り集計（全部署集約）

https://drive.google.com/file/d/17SLI07WH_tkEZBX51zKkEAYq9LKWl7DD/view?usp=sharing

ふり返りについて、以前のカリキュラムマネジメント通信で次のような機能があることを紹介しました。

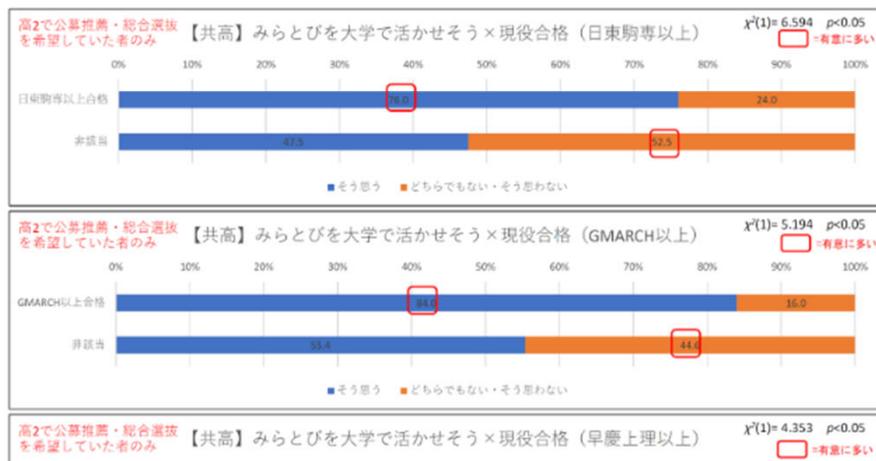
①学びの主体者である生徒にとっては、自らの学びを内省し、次の学習に向けて自らの状況をコントロールするメタ認知機能。

②授業者にとっては、授業の教育的目標が達成されたかどうかをチェックし、次の指導に生かすための重要な根拠資料を提供するフィードバック機能。

「授業に関するふり返り」の主な機能が①にあることは言うまでもありません。その点で、今回の集計結果を見て気になるのは、「未回答」の生徒の存在です。「未回答」の生徒は、に向けて自らの状況をコントロールすることができているとは到底考えられません。こうした生徒たちがふり返りを通じて「自らの学びを内省し、次の学習に向けて自らの状況をコントロールしていく必要があります。考査の結果が出る前に自己採点を行い、どのようなところに問題があったのか、今後どのような対策が必要なのかをしっかりと考えるよう促すことが大切になった」「授業に関するふり返り」が「主体的な学習者」への成長を促す絶好の機会になるという認識を持ちたいところです。【文責・川妻】

【56期共学高校】現役合格×MMP・生徒アンケート分析（6）

引き続き、56期共学高校の現役合格（1人1カウント）データと学びみらいPASS（MMP）、生徒アンケートのデータをクロス集計した分析結果を報告していきます。今回は、「みらと



<今日のテーマ>

- ・振り返りと授業内容理解
- ・探究への取り組みと入試結果

それではご覧ください

**学期末ふり返り・生徒アンケート
をつかった教学IR
ー「新しい進学校」を目指すカリキュラムマネジメントー**

桐蔭学園高校 グランドデザイン

新しい 進学校のカたち

大学・社会につなぐ学び

【育てたい資質能力】(学校教育目標)

社会に生きる主体として自ら考え判断し行動できる資質・能力の育成

- ①他者を承認した上で、多様な人たちと協働できる
- ②学び続け問い続けながら、探究することができる
- ③自己を知り、将来の見通しを持って自らを高めることができる
- ④未知に挑み、出会いを生かして世界を広げることができる

生徒たちの持つ潜在的資質

- ・課題に真面目に取り組もうとする
- ・仲間を思いやり、協力し合おうとする
- ・知的好奇心をもって掘り下げようとする
- ・進路実現に向けて前に進もうとする
- ・出会いを自らの成長に活かそうとする

発達段階に
応じた指導

指導方法

- ・AL
- ・探究
- ・キャリア教育

目指す生徒たちの姿

- ・自ら考え判断し行動している
- ・他者を承認し、協働している
- ・学び続け、問い続けて探究する
- ・自己を知り、将来の見通しをもつ
- ・未知に挑み、世界を広げている

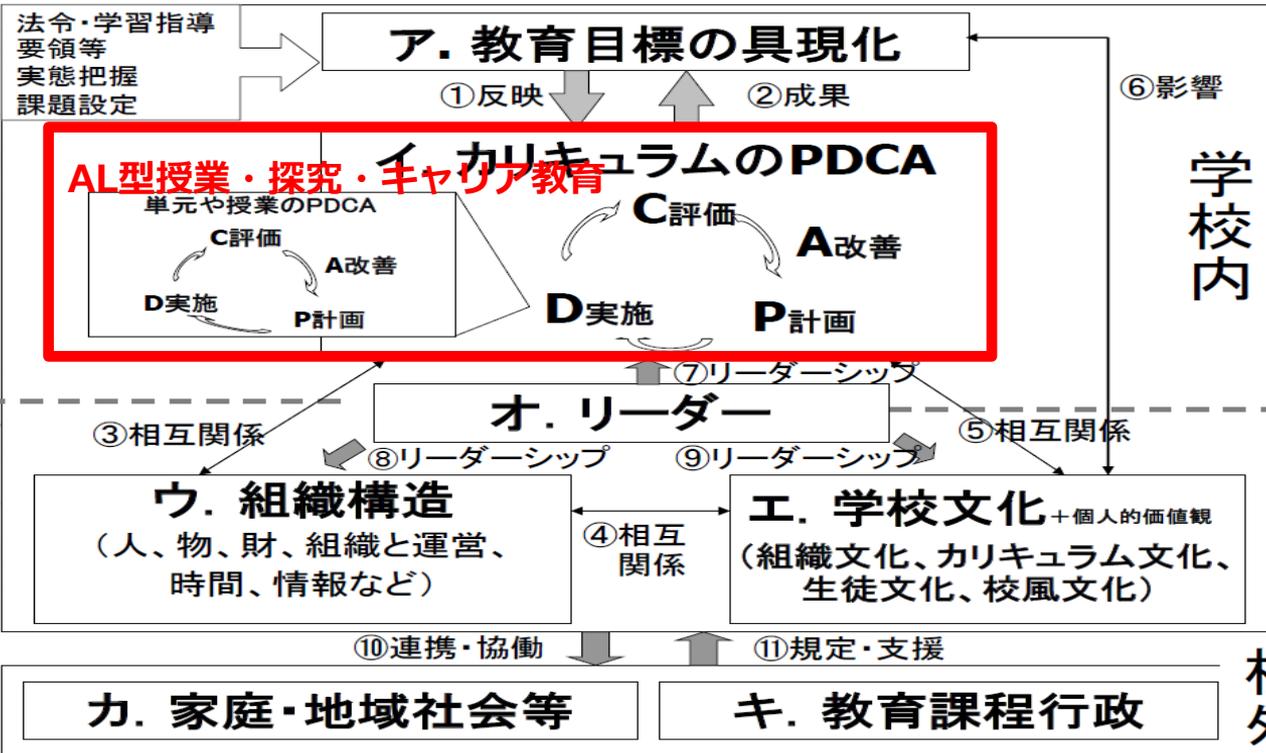
何を学ぶ

- ☑学力の3要素を育てる教科カリキュラム
基礎的な知識技能
問題解決のための思考力判断力表現力
学びに向かう力
※大学受験にもしっかり対応
- ☑問題解決に挑む探究学習プログラム
- ☑大学・社会につながるキャリア教育

どのように学ぶ

- ☑AL型授業(言語活動)
個-協働-個／リフレクション／前に出て発表
- ☑探究
ゼミ活動／発表／論文執筆
- ☑キャリア教育
HR活動／1分間スピーチ／活動日誌／学校
行事／キャリア宣言／プレゼン型面談

教育活動 (基軸は連関性)
経営活動 (基軸は協働性)



**エビデンスによる
効果検証
⇒教学IR**

- ・ 成績 (観点別評価)
- ・ 模試
- ・ 学びみらいPASS
- ・ 英検など

授業に関するふり返り
学びに関するアンケート

授業改善に活用
(大学受験にも対応できるAL型授業・探究)

田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵／編著
「カリキュラムマネジメント・ハンドブック」

授業に関するふり返り

全校一斉の「ふり返り」「アンケート」

【1学期】

- ・（7月考査終了後）1学期期末 **授業に関するふり返り**
- ・（7月考査返却後）1学期期末 生活・活動・学習に関するふり返り

【2学期】

- ・（12月考査終了後）2学期期末 **授業に関するふり返り**
- ・（12月考査返却後）2学期期末 生活・活動・学習に関するふり返り

【3学期】

- ・（1月末）学びに関するアンケート
- ・（3月考査終了後）3学期期末 **授業に関するふり返り**
- ・（3月考査返却後）3学期期末 生活・活動・学習に関するふり返り

授業に関するふり返り

- ・オンラインにて期末考査終了（自己採点）後に全校一斉実施
- ・授業ごとに以下の4項目の質問に回答→回答結果は、授業担当者にフィードバック
 - ①主体的に学習に取り組めたと思いますか
 - ②授業内容を理解できたと思いますか
 - ③協働学習（「個-協働-個」）を通じて学びを深められたと思いますか
 - ④ふり返りを次の学びにつなげるものにできたと思いますか
（とてもそう思う・そう思う・あまりそう思わない・まったくそう思わない）

2022 高1・中等4 1学期 授業に関するふり返り

提出が切は答案返却日 ★英コ1LLは高1のみ ★英語長1②
★数学PC、物化生はアスリート 以外 ★芸術(音楽書)は選
★数学I、科学(一番最後)はアスリートのみ

設問1: 【現代の国語】①主体的に学習に取り組めたと思

とてもそう思う
 そう思う
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない

設問2: 【現代の国語】②授業内容を理解できたと思

とてもそう思う
 そう思う
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない

設問3: 【現代の国語】③協働学習(「個-協働-個」)を通

とてもそう思う
 そう思う
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない

設問4: 【現代の国語】④ふり返りを次の学びにつなげるもの

とてもそう思う
 そう思う
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない

生徒たちは採点期間中に考査を自己採点して、答案返却日まで回答する

グランドデザインに基づいて質問項目を設定

生徒によるふり返りの活用

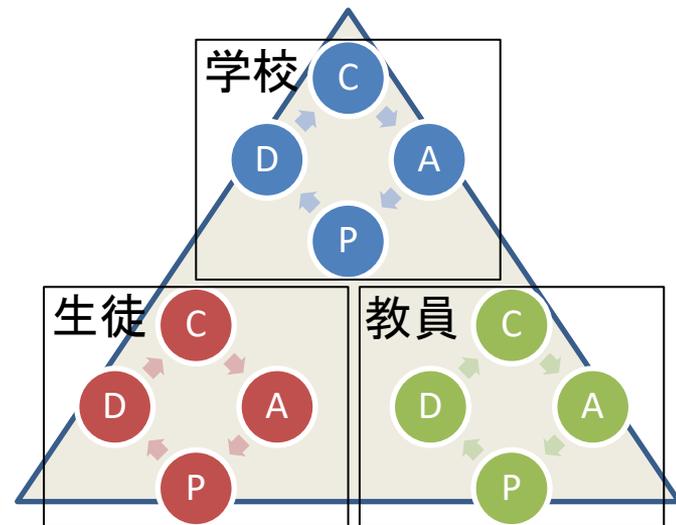
「ふり返り」の機能

小池克之他「生徒による振り返りを視点とした授業改善への実践的アプローチ」『上越教育大学教職大学院研究紀要』2015

- ① 学びの主体者である生徒にとっては、自らの学びを内省し、次の学習に向けて自らの状況をコントロールする**メタ認知機能**。
- ② 授業者にとっては、授業の教育的目標が達成されたかどうかをチェックし、次の指導に生かすための重要な根拠資料を提供する**フィードバック機能**。

西口利文・梶田正巳『成長する教師—教師学への誘い』（1998）

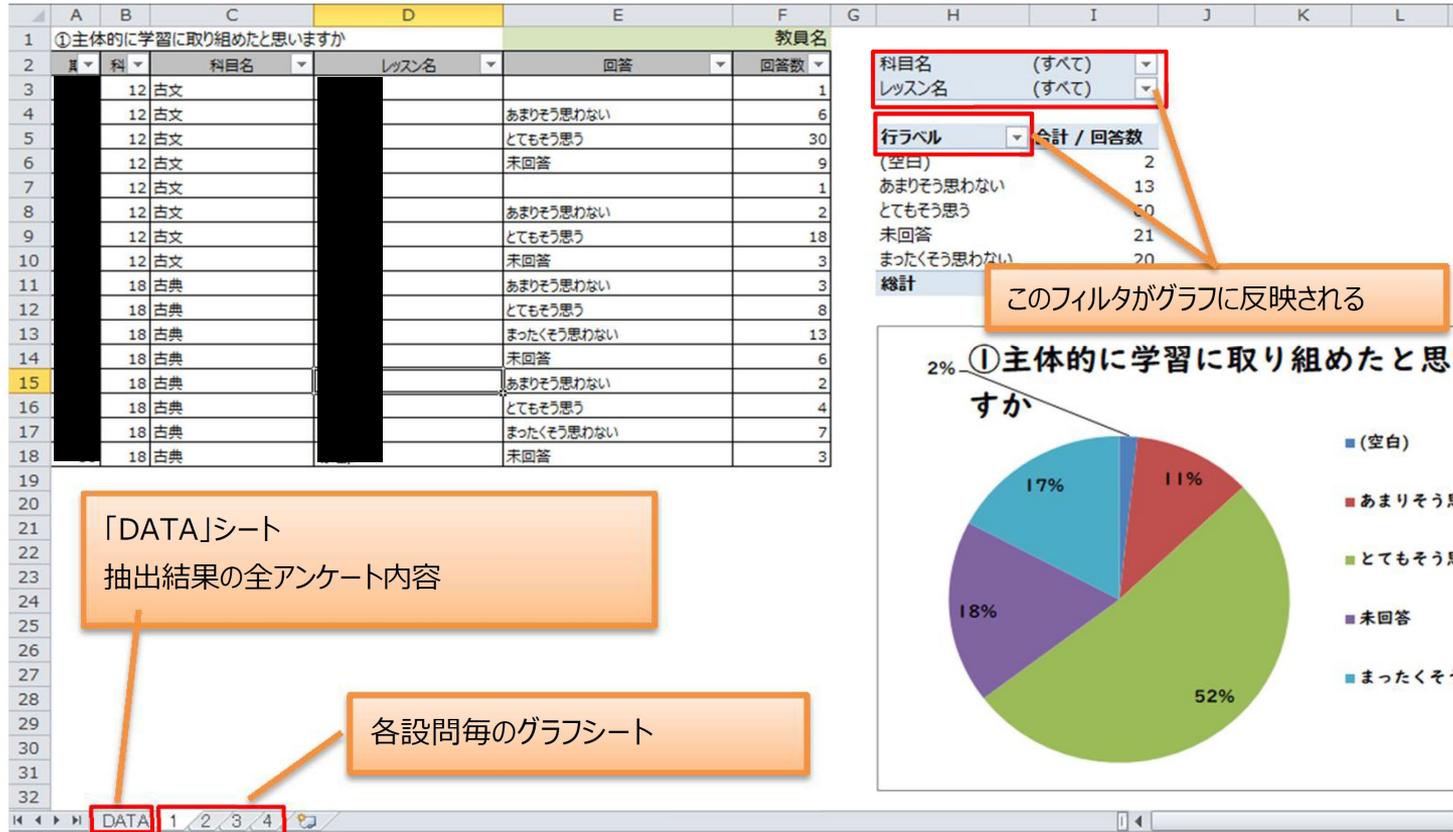
「生徒は教師自身の主観とは異なる視点から教師の振る舞いをとらえている。生徒が事実上授業の唯一の立会人であるということをつままると、**自分の授業をフィードバックしてくれるこれほど身近な存在はいない**と思われる。そこで、自分の授業を知る手段として、生徒たちの報告をもとに、自分の授業を強化するということが考えられるだろう」



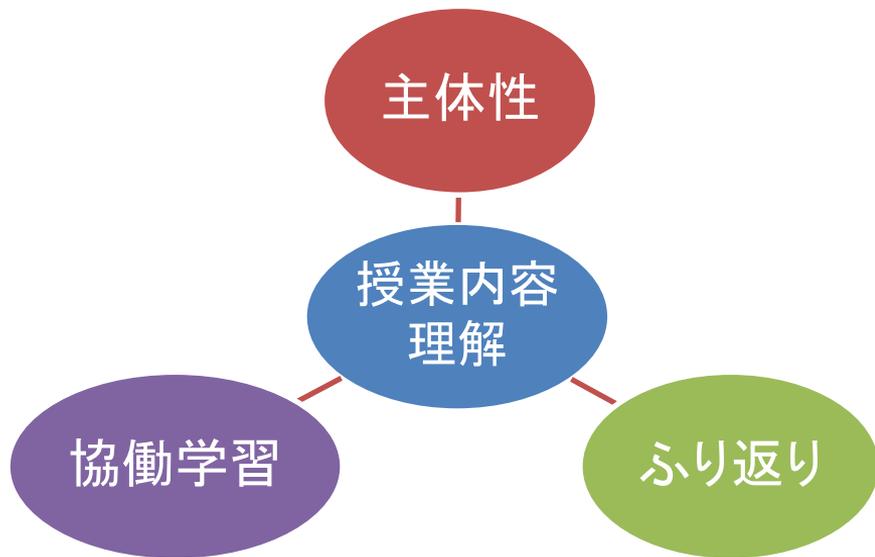
生徒が主体的に学習するためにPDCAサイクルを回すことが、
授業改善のPDCAサイクルを回すことにつながり、
教育目標達成に向けた学校改革のPDCAサイクルを回すことにつながる

個々の授業担当者へのフィードバック

フィードバック用データ (サンプル)



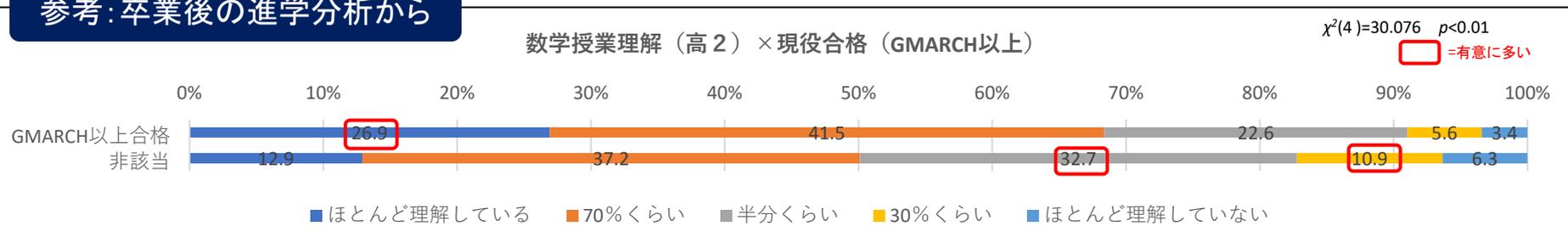
授業内容理解と他の項目との相関



A L型授業で目指す「主体的な学習」「協働による深い学び」「次の学びにつながるふり返り」は、大学受験合格につながる「授業内容理解」とどのような相関が見られるか？

⇒授業内容理解とその他の項目の相関（相関係数・偏相関係数）を分析

参考：卒業後の進学分析から



授業内容理解との相関 分析結果

実際のデータ例

授業内容理解 平均・標準偏差

| | 平均値 | 標準偏差 |
|-------|------|-------|
| 現代の国語 | 3.17 | 0.727 |
| 言語文化 | 3.29 | 0.707 |
| 英語コ | 3.03 | 0.788 |
| 英論表 | 3.18 | 0.723 |
| 英論表A | 3.2 | 0.667 |
| 英語N | 3.16 | 0.716 |
| 数学P | 3.02 | 0.822 |
| 数学Q | 3.02 | 0.801 |
| 物理基礎 | 2.59 | 0.915 |
| 化学基礎 | 2.76 | 0.98 |
| 生物基礎 | 3.04 | 0.748 |
| 歴史総合 | 3.21 | 0.688 |
| 公共 | 3.2 | 0.706 |
| 保体 | 3.42 | 0.725 |
| 音楽 | 3.62 | 0.539 |
| 美術 | 3.47 | 0.573 |
| 書道 | 3.42 | 0.719 |
| 情報 | 2.94 | 0.781 |
| 保健 | 3.21 | 0.698 |

※平均値は1～4点の範囲

授業内容理解との相関

| | 主体性 | 協働学習 | ふり返り |
|-------|--------|--------|--------|
| 現代の国語 | .593** | .639** | .474** |
| 言語文化 | .658** | .663** | .492** |
| 英語コ | .716** | .581** | .501** |
| 英論表 | .654** | .569** | .496** |
| 英論表A | .673** | .670** | .589** |
| 英語N | .751** | .759** | .647** |
| 数学P | .619** | .547** | .561** |
| 数学Q | .726** | .662** | .580** |
| 物理基礎 | .553** | .576** | .539** |
| 化学基礎 | .745** | .694** | .668** |
| 生物基礎 | .674** | .627** | .544** |
| 歴史総合 | .678** | .603** | .614** |
| 公共 | .659** | .710** | .621** |
| 保体 | .831** | .820** | .669** |
| 音楽 | .751** | .695** | .516** |
| 美術 | .735** | .603** | .602** |
| 書道 | .849** | .770** | .587** |
| 情報 | .679** | .662** | .626** |
| 保健 | .768** | .707** | .705** |

全体的に比較的高い相関がみられる
→AL型授業は授業内容理解に有効

授業内容理解との偏相関

| | 主体性 | 協働学習 | ふり返り |
|-------|---------|---------|---------|
| 現代の国語 | 0.304** | 0.379** | 0.025 |
| 言語文化 | 0.375** | 0.363** | -0.015 |
| 英語コ | 0.540** | 0.245** | 0.022 |
| 英論表 | 0.389** | 0.177* | 0.091 |
| 英論表A | 0.292** | 0.264** | 0.112 |
| 英語N | 0.307** | 0.391** | 0.182* |
| 数学P | 0.333** | 0.138 | 0.183* |
| 数学Q | 0.489** | 0.305** | -0.033 |
| 物理基礎 | 0.215** | 0.255** | 0.151* |
| 化学基礎 | 0.450** | 0.224** | 0.109 |
| 生物基礎 | 0.463** | 0.333** | 0.022 |
| 歴史総合 | 0.399** | 0.181* | 0.191** |
| 公共 | 0.255** | 0.382** | 0.217** |
| 保体 | 0.585** | 0.451** | 0.144* |
| 音楽 | 0.431** | 0.536** | 0.161 |
| 美術 | 0.603** | 0.290** | -0.507 |
| 書道 | 0.682** | 0.356* | 0.22 |
| 情報 | 0.330** | 0.291** | 0.131 |
| 保健 | 0.468** | 0.171* | 0.163* |

** 相関係数は1%水準で有意(両側)

* 相関係数は5%水準で有意(両側)

協働学習・ふり返りと
の偏相関が弱い



授業理解を促す協働学
習・ふり返りのあり方
を考えたい

「カリキュラムマ
ネジメント通信」
にて解説を付け
て教員に配信



教科会等で話題
化し、授業改善
に向けたPDCAサ
イクルを回す

学びに関するふり返り

全校一斉の「ふり返り」「アンケート」

【1学期】

- ・（7月考査終了後）1学期期末 授業に関するふり返り
- ・（7月考査返却後）1学期期末 生活・活動・学習に関するふり返り

【2学期】

- ・（12月考査終了後）2学期期末 授業に関するふり返り
- ・（12月考査返却後）2学期期末 生活・活動・学習に関するふり返り

【3学期】

- ・（1月末）**学びに関するアンケート**
- ・（3月考査終了後）3学期期末 授業に関するふり返り
- ・（3月考査返却後）3学期期末 生活・活動・学習に関するふり返り

AL型授業・探究・
キャリア教育に
かかわる質問



成績・模試・学びみら
いPASS・受験結果
データなどと紐づけ

学びに関するアンケート（質問72項目から主なものを抜粋）

- ・評価対象となる「小テスト単元テスト」により基本的な学習内容が身につきましたか。
- ・「パフォーマンス課題」で、思考する力、判断する力、表現する力が身についたと思いますか。
- ・「探究（みらとび）」の授業を通じて、未知に挑み、出会いを生かして世界を広げることができましたか。
- ・「探究（みらとび）」の授業は、大学での勉強や研究に活かそうですか。
- ・「キャリア教育」を通じて、自己を知り、将来の見通しをもって、自らを高めることができましたか。
- ・大学へ進学する方法として、「学校推薦型入試（指定校）」「学校推薦型入試（公募）」「総合型選抜」「一般選抜」のうち、どの方法で進学したいですか。

探究（みらとび）と受験結果の関連 分析結果

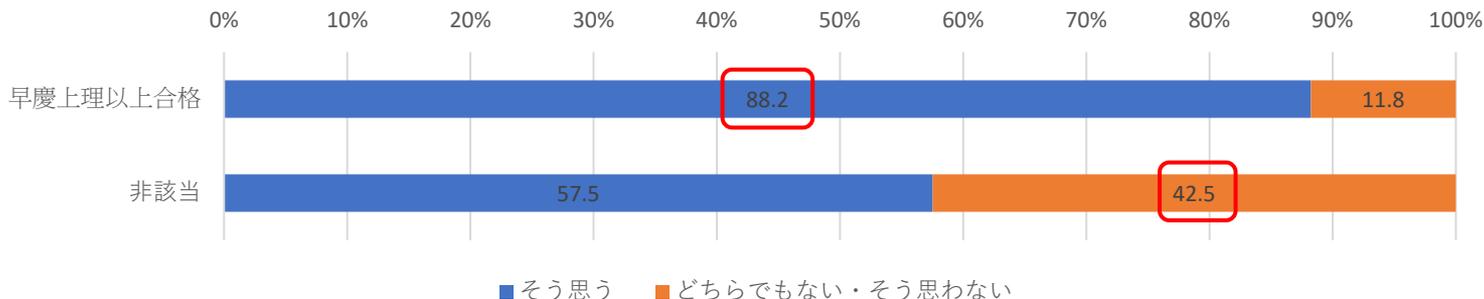
【データ例】 探究（みらとび） 大学で活かそう×現役合格

高2で公募推薦・総合選抜を希望していた者のみ

みらとびを大学で活かそう×現役合格（早慶上理以上）

$\chi^2(1) = 4.353$ $p < 0.05$

□ = 有意に多い



大学での学びに活かすことを想定した探究（みらとび）の取り組みは、大学受験（総合選抜・推薦を問わず）にプラスに影響

「カリキュラムマネジメント通信」にて解説を付けて教員に配信



脱「探究 VS. 教科」

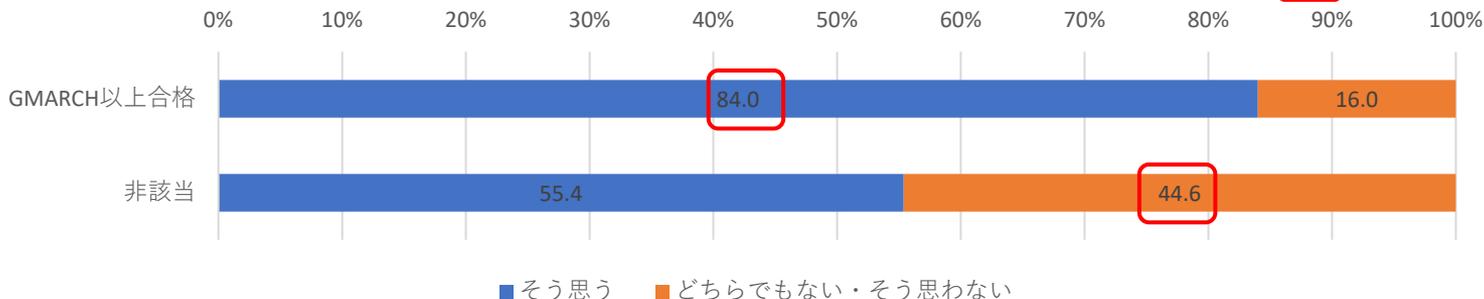
魅力ある「探究（みらとび）」を実現するためのPDCAサイクルを回す

高2で公募推薦・総合選抜を希望していた者のみ

みらとびを大学で活かそう×現役合格（GMARCH以上）

$\chi^2(1) = 5.194$ $p < 0.05$

□ = 有意に多い





TOIN GAKUEN